

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第194期）

福岡県飯塚市 武本 慎太郎

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

所属する自治体の人事部局より自治大学校への研修派遣の声をかけていただいた際は、大変身に余る思いでありました。しかし、様々なことを勉強できる機会であり自分自身が成長できるチャンスだと捉え、「お願いします」と即答しました。家族や職場の方々の理解もあり研修派遣が実際に決定したときは、大変嬉しく思うと同時に「頑張らなくては」という気持ちが込み上げてきました。

2 基本法制研修B第7期

基本法制研修Bは、10月12日から29日にかけて行なわれました。講義が中心となり、行政法・民法・地方自治制度・地方公務員制度・地方税財政制度の5科目を受講しました。地方公務員としての基本法制を体系的に学ぶことにより、職務を遂行するに当たっての法的知識はもちろん、法的感覚・法的思考の重要性を改めて実感しました。

また、最後には効果測定（テスト）があり勉強に追われる毎日でしたが「金曜日は寮の同じフロアのメンバーと交流する日」と決め、自分へのご褒美をちらつかせることにより、やる気やモチベーションを高めメリハリのある研修生活を心掛けました。

3 第2部課程第194期

第2部課程は、11月12日から1月13日にかけて行なわれました。研修科目は、政策形

成能力を高めるための実践的な知識や地方公共団体を巡る最新の話題を取り上げた「講義」、地方公共団体の現場が直面する課題実例のテーマが与えられ問題発見・解決に向け班ごとに議論する「事例演習」、実際に首長に提言することを想定してグループごとにテーマを設定し行政課題の解決に向けた政策を立案する「政策立案演習」などで構成されています。

講義は、公共交通・観光・産業政策・農業政策・地域福祉・多文化共生・情報化・災害危機管理・地域再生論など、幅広い分野に及びます。私自身がこれまでに経験したことのない分野ばかりで、どの講義も大変興味深く新しい気づきも数多くあり、所属する自治体に参考となる実践的なアイデアを学ぶことができました。

また、講義は幅広い分野に及びますが、その背景には少子高齢社会・デジタル社会・価値観の多様化があり、そのなかで取り組むべき様々な課題はお互いに影響しあっているように感じました。現代における課題解決のカギは“一つの分野だけではなく幅広い分野から考える視点を持つことが大切である”と思いました。

事例演習では、事前に配付される課題研究用事例からテーマが与えられ議論する「テキスト型」と、研修生が行政の現場において直面した具体的な事例を取り上げ議論する「持寄型」があります。1班が12名程度で編成され、それをさらに4名程度の小グループに分けられます。進め方としては、まず小グループで事例の問題点・改善策等を検討した後、班毎にその結果を外部教官の下で討議するという流れで行われます。

議論をしながら思ったことは、一つの事例を

挙げても各自治体において現況（組織風土や地域事情）が異なるため、事例の問題点に対する解決策もそれぞれ違ってくるということです。つまり、これをやればすべて解決するという万能の処方箋はないと感じました。大切なことは、まず相手の考えを理解することで自分の視野を広げ、建設的な議論のなかで解決策を探し出すことが重要であると実感しました。

政策立案演習では、「住民協働」「経済活性化」「医療・福祉」「教育・文化」「まちづくり」「防災」のグループに振り分けられます。1グループあたり5～6名で編成され、各グループは政策に関するテーマを設定することから議論します。テーマが決まったら、現状分析・課題抽出・政策提言・政策効果についてメンバー全員で一つ一つ議論を重ね、外部教官の指導を仰ぎながら報告書にまとめていきます。

限られた時間のなかで膨大な業務量からなる報告書を作成するためには、メンバーそれぞれの特長（データ分析が得意な者・文書作成が上手な者等）を活かしながら取り組む必要があります。このことは実際の業務にも通じるものがあり、私一人の力は微々たるものですが、チーム一丸となって課題に取り組めば想像を超える結果（より良い結果）を出すことができることを学びました。

4 仲間との出会い

自治大学校での研修生活が始まると、これまでのライフスタイルが一変し、とても密度の濃い有意義な毎日となりました。その反面、講義の事前準備や演習における提出物の作成など、忙しい毎日でもありました。そのような毎日に安らぎや楽しみを与えてくれるのは、北は北海道から南は沖縄までの全国各地から集まる仲間です。

寮生活をしながら研修で苦楽を共にする仲間との出会いは、コミュニケーションを通じて、

楽しさは2倍・苦しさは半分になるほど、かけがえのない存在となりました。私自身、同じフロアの仲間はもちろん他のフロアの仲間からも、学んだことや助けていただいたことが数多くあり“人のありがたみ”を実感しました。この出会いを一生大切にしたいと思っています。

また、今回はコロナ禍における研修でしたが、我がフロアメンバーでは立川市内の飲食店各所でテイクアウトして楽しむというスタイルを確立しました。感染症対策・費用対効果・暴飲暴食の予防の面からもおすすめです。

5 おわりに

1月13日に迎えた卒業式、成し遂げたという達成感と終わったという喪失感で感極まるものがありました。自治大学校での研修は、私の人生にとって大変貴重な経験になりました。そう言わせるものが自治大学校にはあります。

この経験を今後の業務に活かすためには、地方自治体を巡る最新の情報を常に入手し、業務改善や課題解決のヒントやアイデアを集め、ものごとを俯瞰する力を養うことを実践します。

また、業務を遂行するに当たっては、チームで仕事をする姿勢を大切に、他部門と連携しながら組織全体がより良い方向に向かうことに貢献します。

そして、人口減少時代における地域づくりや課題解決に向け、自治体職員として地域住民や企業など多様な主体と協働し取り組みます。